

助け合いの心を学んだ中越大地震災

六年 水落 咲

十月二十三日土曜日、たいへんな出来事があつた。夕方、ご飯を食べていると、急にぐらりとゆれた。母が大きな声で「地震だ」と言った。私は急いでテーブルの下にもぐつた。夕飯のおかずやご飯が落ちてきて、とてもこわくて体がふるえた。私たちが家族七人は急いで外に出た。余震がくると、家はゆらゆらゆれていた。私の家がゆれるなんて思ってもいなかった。

次の日学校へも難すると体育館やグラウンドは地域の人が飛いぱいだつた。東下組は道路がくずれてこ立していたので、地域のお母さんたちが、持ち寄つたお米や野菜でご飯を作ってくれた。また、青年団や消防団が夜中も危険な場所などの見回りをしてくれた。大変な日は、これからどうなるんだろうと不安でいっぱいだつた。道路が直つてからは自衛隊が来て、料理を作ったり、テントを持っ

てきてくれたりした。救え人物資や励ましの  
手紙もたくさん届いた。全国のたくさんの人  
が心配してくれていると分かり、ありがたい  
なあと思っただ。

私たちは、青空教室で勉強をしながら、地  
域の人たちのお手伝いをした。具合の悪い人  
を保健室まで連れて行ったり、中学生やボラ  
ンティアの人たちと一緒に清掃をしたりした。  
お年寄りに少しでも元気になってもらいたく  
て、かたもみをしたり、マッサージカードを  
プレゼントしたりした。

一年経って、今は家も直り、地域も学校も  
楽しい生活にもどっている。地震は二度とお  
きて欲しくないけれど、避難生活からは、大  
変なことみんなを助け合い協力すれば、こ  
服できるという、大切なことを学ぶことがで  
きた。そのことを教えてくれた家族や地域の  
人、また、自衛隊や励ましてくれた全国のた  
くさんの人に感謝したい。そして、今度は私  
が困っている人を励ましたいと思う。